

Ⅲ. 專 門 分 野

[小児看護学]

必修科目(28)

科目	小児看護学 小児看護概論	単位	1	時間数	20	開講期	1年後期	担当者	看護師: 矢野 玲枝
----	-----------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	------------

講義の概要および学習目標	<p>小児看護の目的は、さまざまな健康レベルにある小児に対する必要な援助を行うことである。そして、小児をとりまく家族や地域の人々とともに、小児を社会の一員として健やかに育てていくことが重要である。そのためにはまず、対象である小児期の特徴を理解していく必要がある。そこで本科目では、小児各期の成長・発達の特徴について学び合い、成長・発達の原則に則った基本をおさえることを目指している。さらに、小児の成長・発達に合わせた日常生活行動の獲得に向けた支援や遊びの意味についても理解を深めていく。</p> <p>また、小児とかがかわるうえで、小児一人ひとりの存在を尊重することが基盤となる。すべての小児が権利を有することを理解し、その子にとっての最善の利益とは何かを常に考え続ける必要性がわかり、子ども基本法や子どもの権利条約の理解を深めていく。本科目での学びが2年次以降の病気のある小児の理解につなげていくことがねらいである。</p> <p>《学習目標》 小児各期の成長・発達の特徴について学ぶ。さらに発達段階に合わせた遊びや日常生活行動の獲得に向けたかかわり方を学ぶ。また、子どもを守る法律や制度を理解し、子どもを一人の存在としてとらえ、子どもの権利条約に基づいたかかわりについて考えながら学ぶ。</p>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児看護学への招待～小児にかかわる日本の現状と未来～ 2 新生児期・乳児期の成長・発達の特徴 3 幼児期の成長・発達の特徴 4 日常生活習慣の獲得に向けた支援 5 日常生活習慣の獲得に向けた支援まとめ・小児にかかわる理論、前半筆記試験 6 学童期・思春期の成長・発達の特徴 7 子どもの遊び 8・9 子どもの権利条約 10 子どもを守る法律と制度・後半筆記試験
評価法	出席状況、課題(個人・グループワーク)への取り組み姿勢、グループ内評価、グループ別評価、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	<p>本科目の多くは、事前学習として各自が担当し、調べてきた内容について資料をまとめ、小グループで発表し合う協同学習をおこなっていきます。プレゼンテーション力も養いながらグループで教え合い・学び合います。他学生にも影響するため、事前学習にはきちんと取り組み、他者に説明できるように自分が理解し学習してほしいです。本科目で作成する資料は、2年次以降に学ぶ科目や小児看護学実習、さらには国家試験勉強にも役立つため、個人が教える責任を感じながら学習してほしいです。</p> <p>本科目では、小児期時代の自分を想起し、時には子どもになりきって、楽しみながら学んでほしいです。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 ／奈良間 美保 他／医学書院 2) ナーシンググラフィカ 小児看護学①「小児の発達と看護」 ／中野 綾美 他／メディカ出版
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生涯人間発達論 第3版／服部 洋子／医学書院 2) 小児看護学①小児看護学概論・小児保健／松尾 宣武 編集／メヂカルフレンド社 <p>その他、成長・発達に関する保育書籍等授業の中で紹介します</p>

必修科目(29)

科目	小児看護学 小児看護援助論	単位	1	時間数	15	開講期	2年 前期	担当者	看護師:山口 一世
----	------------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	-----------

講義の概要および学習目標	<p>健康障がいのある子どもと家族は症状や治療による苦痛や悲しみなどの体験とともに、それを乗り越えた達成感をもつ。</p> <p>この科目では、疾病や障がいによる症状や生活環境の変化に対して子どもと家族が示す反応について、健康の段階や発達段階を考えながら理解する。その上で、病気の理解の仕方に合わせた関わりや子どもの表現を助けるための看護の基本を学ぶ。また、障がいのある小児と家族の実際の生活を知る機会を持ち理解を深める。成長発達の特徴をイメージしながら健康障がいのある小児と家族へのコミュニケーションや説明方法の要点を学習する。</p> <p>《学習目標》 健康上の問題を抱えた小児と家族への影響と支援について学ぶ。また、発達段階に応じたコミュニケーション、かかわりの基本を学ぶ</p>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの発達段階の特徴と病気の理解 2 外来における小児と家族の理解 3 入院する小児と家族の理解 4 障がいのある小児と家族の理解 5 急性症状、慢性症状のある小児と家族の特徴 6 小児とのコミュニケーション 7 プレイ・プレパレーション 8 終了試験
評価法	出席状況、課題(個人・グループワーク)への取り組み姿勢、グループ内評価、グループ別評価、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	小児看護援助論では病気や障がいを持つ小児と家族への理解を深めていきます。小児看護におけるコミュニケーションを学ぶ際にはグループワークも取り入れていきます。積極的に参加し小児看護の基礎を深めていきましょう。
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野 「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 ／奈良間 美保 他／医学書院 2) ナーシンググラフィカ 小児看護学① 「小児の発達と看護」 ／中野 綾美 他／メディカ出版 3) こどもの病気の地図帳／鴨下 重彦 他／講談社
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野 「小児臨床看護各論」／丸 光恵 他／医学書院 2) 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助／二宮 啓子 他／南江堂

必修科目(30)

科目	小児看護学 小児看護の展開 I	単位	1	時間数	30	開講期	2年後期	担当者	看護師:山口 一世 看護師:中村 泉 臨床看護師
----	--------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	--------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>健康障害の種類については、解剖生理学、病理学などの知識をもとに、病態生理と治療Ⅳ(小児疾患)で学んだ小児の健康障害と結びつけながら小児がその病気を体験している事実を見つめる。そして、小児看護概論で学んだ子どもの権利、一般的な成長・発達、小児看護援助論で学んだ病気のある小児と家族への理解と看護の基本をもとに、事例を用いて対象に応じた看護を学習する。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発達途上にある小児にとって健康障害や入院・治療を受けることによって起こる諸問題を理解する。さらに、その小児の健康の段階に応じた看護と家族への支援について学ぶ 2 小児期の特徴に合わせた小児に特有な看護技術について学ぶ
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 生命を維持する働きの障害 気管支喘息の小児と家族への看護 2 食物を消化・吸収する働きの障害 乳児下痢症の小児と家族への看護 3 小児に起こり得る事故と看護 4 生活をつくりだす働きの障害 上腕骨骨折の小児と家族への看護 5 外界と個との不適応現象による障害 熱傷の小児と家族への看護 (臨床看護師) 6 行動範囲を拡大する働きの障害 若年性特発性関節炎の小児と家族への看護 7 生命の連続性を維持する働きの障害 口唇口蓋裂の小児と家族への看護 (臨床看護師) 8 統一体を支える血液の破綻による障害 急性リンパ性白血病の小児と家族への看護 (臨床看護師) 9・10 小児に必要な看護技術 11・12 食物を消化・吸収する働きの障害 鎖肛の小児と家族への看護 (事例展開) 13 人間を統合する脳の働きの障害 てんかんの小児と家族への看護 (臨床看護師) 14 人間を統合する脳の働きの障害 発達障害のある小児と家族への看護 15 終了試験
評価法	出席状況、課題(個人・グループワーク)への取り組み姿勢、グループ内評価、グループ別評価、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	<p>事例に基づき、その発達段階の特徴を想起しながら看護を考えていきます。成長・発達の復習をして授業に臨んでください。また、本科目で取りあげる健康障害の種類は、皆さんも幼少期に経験したことのあるようなものも含まれています。自分の子どもの頃の病気や入院体験があれば思い出しながら授業とつなげていってください。また、臨床看護師からの講義も設けています。実際に入院している小児の貴重な事例を聞きながら、入院中の小児・家族の様子や、小児・家族へのかかわり方のイメージを膨らませて、自らの看護に活かしてください。</p> <p>小児看護技術では小児期の発達段階の特徴に合わせた技術を提供するにはどのような知識が必要なのかを資料にまとめます。グループで調べたことを互いに教え合う体験を通して小児看護技術の学びを深めていきます。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 ／奈良間 美保 他／医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野「小児臨床看護各論」／奈良間 美保 他／医学書院 3) ナーシンググラフィカ 小児看護学①「小児の発達と看護」／中野 綾美 他／メディカ出版 4) こどもの病気の地図帳／鴨下 重彦 他／講談社
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新訂版写真でわかる小児看護技術アドバンス ／山元恵子監修 株式会社インターメディカ

必修科目(31)

科目	小児看護学 小児看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	3年前期	担当者	看護師: 矢野 玲枝 看護師: 中村 泉 保育士
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	--------------------------------

講義の概要および学習目標	<p>小児看護概論・小児看護援助論で学んだ一般的な成長・発達、子どもの権利、病気のある小児と家族への理解をもとに、小児期の特性を理解する。さらに、病態生理と治療Ⅳ(小児疾患)で学んだ知識をもとに、小児の健康障害についても事例を用いて看護の思考過程を使いながら個別の対象に応じた看護を学習する。</p> <p>また、小児看護学実習とつなげて、実践トレーニングを取り入れ、臨床判断能力を養う。これまで学んだ小児看護学や小児看護学実習をもとに、小児看護のまとめをおこない、自身の子ども観、看護観を発展させる。</p> <p>《学習目標》 発達途上にある小児にとって健康障害や入院・治療を受けることによって起こる諸問題を理解する。さらに、その小児の特性(発達段階・健康障害等)に応じた看護と家族への対応について学ぶ。</p>
講義内容	<p>1・2 内部環境を維持する働きの障害 ネフローゼ症候群の小児と家族への看護 (事例展開)</p> <p>3・4 生命を維持する働きの障害 川崎病の小児と家族への看護 (事例展開)</p> <p>5 生命の連続性を維持する働きの障害 ファロー四徴症の小児と家族への看護 (事例展開)</p> <p>6 生命の連続性を維持する働きの障害 ダウン症候群の小児と家族への看護 (事例展開)</p> <p>7 療育支援が必要な小児と家族とのかかわり方 (保育士)</p> <p>8・9 実践トレーニング バイタルサインシミュレーション</p> <p>10 実践トレーニング 危険予知トレーニング</p> <p>11 終末期の小児と家族への看護</p> <p>12・13・14 小児看護学のまとめ</p> <p>15 終了試験</p>
評価法	出席状況、課題(個人・グループワーク)への取り組み姿勢、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	<p>事例から、その発達段階の特徴や健康障害から看護過程の展開を進めながら看護を考えていきます。小児の反応から発達の理解をし、子どもと家族のおかれている状況や環境を的確に判断し、こどもの権利を守りながら小児や家族へのかかわりを考えてください。また、本科目で取り上げている健康障害の種類は、小児看護の展開Ⅰに比べて難しくなります。小児期の特徴を踏まえて健康の段階に応じた看護も学んでください。</p> <p>実践トレーニングでは、小児看護学実習とつなげて学んでいきます。自身の実践や体験を俯瞰し、振り返りながら事例の小児や状況の理解につなげていってください。</p> <p>小児看護学のまとめでは、これまでの学習、実習等における体験から、活発に意見交換をし、子ども観、看護観を発展させてください。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1) 系統看護学講座 専門分野「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 ／奈良間 美保 他／医学書院</p> <p>2) 系統看護学講座 専門分野「小児臨床看護各論」／奈良間 美保 他／医学書院</p> <p>3) ナーシンググラフィカ 小児看護学①「小児の発達と看護」／中野 綾美 他／メディカ出版</p> <p>4) こどもの病気の地図帳／鴨下 重彦 他／講談社</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1) 小児看護学② 健康障がいをもつ小児の看護／松尾 宜武他／メヂカルフレンド社</p> <p>2) 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助／二宮 啓子他／南江堂</p>